

最後に、さらに伝えたいこと

扱う現象を理解するモデルにより、できることが大きく異なってくる。

- 古典制御理論の伝達関数法的なモデルでは制約が大きい。
- 現代制御理論の状態空間法的なモデルで解決できる問題は多い。
(この熱回路網モデルでは、拡散系を汎用的な数式モデルでとらえ、状態空間方程式で扱う)
- カルマンフィルタが、こちらの逐次同定と同じなら、合理的な結果が得られるのは、こちらの移動一括同定ではないか？
- 微視的な数値流体解析などのモデルでは、建物全体的で長期間の問題検討には限界がある。「木を見て森を見ず」にならないように。
(細かいモデルから大まかなモデルを数学的に生成する熱回路網のシステム濃縮理論もあり、両者を融合できるのが熱回路網の枠組み)
- 空調システム・シミュレーション・プログラムは、コンポーネント間の汎用的な接続法と連成法が問題と捉え、方法を考案してみたことがある。
(「空調システムシミュレーションの理論とアルゴリズム」, 空気調和衛生工学会学術論文集, 1982年10月)

期待したいこと

前述した各種の計算プログラムのユーザーとしてだけでなく、さらなる発展的な研究・開発ができる人が出てくることを期待したいと思います。

- ・御遠慮なく御尋ね下さい。喜んで協力させていただきます。
- ・またWeb上で質疑応答できるサイトを設けたいと思いますので、サイトの構築と運用に御協力下されば幸いです。

謝辞

これまで好き勝手なことができたのは、多くの方々のおかげです。その人々と、良くも悪くも与えられた環境に、感謝申し上げたいと思います。

